

# 小松の深読み

第2回

株ミヤジマ訪問記

彦根商工会議所に「ひこねものづくり支援室」が開設されて、1年が経過します。この間彦根の会員事業所への訪問、ものづくり塾の開催、各種講演会参加など「ものづくり」にまつわる色々な場面で活動させていただいています。そこで、この度「小松の深読み」と題して情報発信させていただきます。皆様のご意見・ご感想などあればお聞かせください。

ミヤジマは、「宮嶋式弁棒鍛造」という独自の熱間鍛造方式をベースとして、シャフト部品の据え込み(アブセット)鍛造のみに特化しているユニークな会社である。近年、ものづくりが海外に移転されている中で、今年の4月には新工場も稼働され、今後とも「日本でのものづくり」にこだわる元気な企業である。社長にものづくりへの思いを聞いてみた。

## 最近の経営状況と経営方針

最近の経営の状況は、北米向けなどの工作機械、建機が好調で売上は回復しつつある。ただ中国の成長停滞の影響を受けるリスクは含んでいる。売上に関しては、現社長(宮嶋誠一郎氏)が社長に就任した平成14年以降、販路拡大により3倍近い伸びを達成している。そのベースになったのは、ものづくり技術、人材育成が大きく寄与したと思われる。

経営方針については、社長の思いを毎年「事業発展計画書」という1冊の経営計画書にまとめ従業員に伝えている。これはミヤジマの羅針盤にあたるものである。その基本的な考えは、「ミヤジマを良い会社にした」。社員とそのこ

家族を幸せにしたい」であり、その思いを実現するための「考え方」と「具体的な取り組み内容」をまとめてある。特に「安全」と「品質」は会社の命」と書かれている。

## 会社の強み…ものづくりと人材育成

ものづくり技術では、同社の「宮嶋式弁棒鍛造」方式は、実は非常に非効率な生産方式といわれている。ただし小ロット対応や特殊形状をだせるメリットがある。そのため、この非効率生産方式をいかに効率化するのが大きな課題であり、それを鍛造の匠の技のノウハウなどの蓄積により日々改善している。

社長は、「自分が社長になるまでは、全て自分で自分で仕事をした気になっていた。ただ社長になったときから社員の見方が変わった。全ての社員には、色々な特技を持った人がいることに気づく。それがわかると社員を尊敬するようになり、それから仕事を部下に任せられるようになった」という。この考え方が人材育成のベースになっているように思われる。ミヤジマでは、毎月従業員誕生会を実施している。従業員36名が対象になる。社長は毎回必ず出席しコミュニケーションを図っている。最初は、違和



## 株式会社ミヤジマ

所在地：多賀町多賀1008  
電話番号：0749-48-0571  
取締役会長：宮嶋誠一郎  
設立：1956年  
従業員：36名  
事業内容：各種シャフト部品の熱間据え込み鍛造、熱処理、機械加工

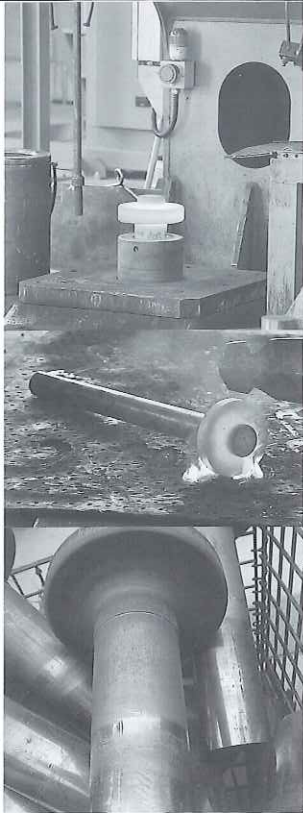
感もあつたようだが、今は自然な形で行われている。ただ、社長は社員に対しては厳しいことでも有名である。「人より2割よく見てもらうためには2倍の努力が必要」と。厳しさと思いやりの両立をうまく実践されていると感じた。

## 今後の展開

新工場への思いについては、「彦根は地理的に恵まれている(社長は北は新潟から南は長崎まで全国に足を運んでいるが、彦根は日本の真ん中である)。都会より地価も安く、物流もよい、災害も少ない。そんな彦根できっちりしたモノづくりを行い『地元の誇り』といわれる会社にした」と力強くお話をいただいた。

彦根で、ものづくりを継続するためには、「既存の枠にとられないこと」と社長のコメントがあり、私がある講演会で聞いたことを思い出した。

「日本人は境界線を引き、それを越えようとしていない。越えたところに色々なものが見えてくる。境界線を越えたところに新しい仕事がある」まさに宮嶋社長は、境界線を越えようとしている。



彦根商工会議所  
ものづくり支援室長

## 小松 照明

1976年静岡大学工学部卒業後、松下電工(現パナソニック)入社、彦根工場配属。以後、生産技術部長、パーソナル事業部シェーバ商品部長、工場長を歴任。2012年彦根商工会議所ひこねものづくり支援室室長就任。